

視聴覚教材の作成について（第2案）

資料3

○ 現在使用されている視聴覚教材の概要

- ・受刑者に対して、自らの犯罪と向き合い、犯した罪の大きさや被害者の心情等をより深く認識させ、被害者の視点を取り入れた教育の充実を図ることを目的として整備された視聴覚教材。
- ・各被害者支援団体及び専門家の御協力を得て、犯罪被害者やその家族（遺族）の方からの証言及び犯罪被害者の実情についての解説を収録。
- ・一般改善指導「被害者感情理解指導」及び特別改善指導「被害者の視点を取り入れた教育」それぞれで使用可能な事例を収録。

○ 新たな視聴覚教材（NARRATIVE（ナラティブ）Ⅴ（仮称））の方向性

一般改善指導「被害者感情理解指導」（R0）及び特別改善指導「被害者の視点を取り入れた教育」（R4）において、本教材の視聴を通じて、自らの犯した罪の責任の自覚や犯罪被害者の置かれている状況等の理解を促すとともに、償いの在り方について考えを深めさせる。

【作成に当たって留意すべき3つのポイント】

- ① 受刑期間を通じ、特別改善指導（R4）／一般改善指導（R0）問わず利活用可能な内容とする。
- ② 特別改善指導「被害者の視点を取り入れた教育」標準プログラムの構造化（オリエンテーション／コア／フォローアップ／メンテナンス）を意識した内容とする。
- ③ 単なる知識の付与にとどまらず、被害者等の置かれた状況やしよく罪に向けた行動について受講者に具体的に考えることを促すための事例（インタビュー）で構成する。

【NARRATIVE（ナラティブ）Ⅴ（仮称）構成例】※DVD4.7GB（片面1層記録120分）1枚を想定

オリエン
テーション

- ・事例①（15分）償いの方法を考え始める殺人事件の加害者

コア

- ・事例②（20分）被害者の御遺族へのインタビュー（交通死亡事件の被害者遺族となって）
- ・事例③（20分）謝罪の手紙の在り方を考える傷害事件の女子受刑者
- ・事例④（20分）被害者の御家族へのインタビュー（傷害事件の被害者家族となって）

フォロー
アップ

- ・事例⑤（15分）コアプログラムを終え、謝罪し続ける方法を模索する交通事犯者
- ・事例⑥（15分）コアプログラムを終え、償いの気持ちをどのように行動に示すか考え続ける長期受刑者
- ・事例⑦（15分）コアプログラムを終え、償いの気持ちをどのように示すか悩み続けている殺人事件加害者